平成31年度（令和元年度）計画　業務実績報告書

資料12

第三期中期計画	項目番号	平成31年度（令和元年度）計画 達成状況	項目ごとのＰＤＣＡ	担当部局等	事務局	評価	評価委員会の指摘・意見等
第2　教育に関する目標を達成するための措置 1　専門職業人の育成に関する目標を達成するための措置							
・デザイン学部と看護学部の学生が協働して、地域の現状や課題を知り、その解決手法を提案する地域志向科目を連動させることにより、地域に貢献できる人材を育成する。 【指標】卒業時に地域の課題発見、解決提案する能力が身に付いたと認識した学生の割合：65％/年	1		P（計画：Plan）【重点取組事項】 ・両学部の学生が協働して地域課題に取り組み、それぞれの専門性を理解しながら異分野連携に必要な基礎的 … 目「学部連携基礎論」、その基礎を踏まえて課題解決プロセスを習得する3年次後期開講科目「学部連携演習」等の地域志向 ・「学部連携演習」の成果について、卒業時の教育評価アンケートを基に経年的な検証を行う。 全体（4月～翌年3月） D（実施状況：Do） C（検証・課題：Check） A（今後の取組：Action）	教務・学生連絡会議	学生課、桑園事務室		
			成果指標 ・卒業時に地域の課題発見、解決提案する能力が身に付いたと認識した学生の割合：65％				
			成果指標の達成状況				
			前年度実績に関する評価委員会からの意見・指摘事項等 ・今後は、4年次まで新カリキュラムの導入が進み、卒業時の教育評価アンケート結果によい成果が現れることを期待する。 ・全学部共通3ポリシーの策定と学部別3ポリシーの見直しは適切 … ポリシーや科目ナンバリング制度に関して学生の認知度が低い点 … 組に期待する。 ・ディプロマポリシーや科目ナンバリング制度の認知度の更なる向 … 報の強化が当面の課題であるが、制度自体やその説明が今の学生には難解すぎるとも考えられるので、次の見直しの機会にこれらの記述・説明を学生にとって分かりやすく興味をひくものにしていくことも重要である。				
			前年度実績に関する評価委員会からの意見・指摘事項等に対する対応				

大学の自己評価（進捗状況）

31年度（元年度）
計画実施状況
評価委員会評価

指標の達成状況を記載
数　値：◎=達成（100%以上）、〇=達成（80%以上）、×=未達成（80%未満）
その他：◎＝達成、×＝未達成

評価の根拠・ポイント・補足を記載
※評価結果が大学の自己評価と異なる場合は必須

昨年度の評価委員会意見と対応状況